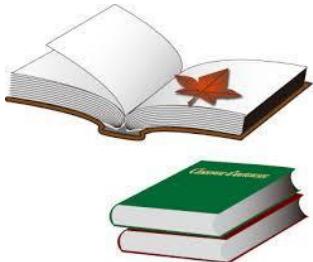


入試への強い味方



読書のススメ

読書の秋です。国語力の基礎は読書から。読書量と国語力は比例します。これには例外はありません。以前、夏期講習の国語の時間である物語文が題材となりました。たしか椎名誠さんの「岳物語」だったと思います。余談も交えて著者の椎名さんの裏話などして文章の内容にふくらみをつけました。翌日、ある生徒が先生「岳物語」買ってきました、といってハード表紙の単行本を私に見せてくれました。なんて実行力のある子だろうとむしろ私の方が驚きました。その後、彼は興味ある本を次々に購入し読解力と知識をめきめきつけていきました。もちろんそれが彼のその後の学習に大きな力を与えた事は言うまでもありません。

大半の中学校入試では国語の配点は算数と同様、理科や社会の1.5倍～2倍です。しかも算数のようにその日のコンディションによる変動も少なく比較的安定して得点を得ることができます。ですから、われわれは入試直前期の国語力によって合否をある程度読むことができるのです。しかも、国語力は一旦ついた力はそう簡単には衰退しません。一方算数だと練習不足、理科・社会では暗記不足が学習に支障をきたします。

以上から、国語力はなるべく早期に養成することが得策です。それによって他の科目にシフトすることができます。さあ、秋です。ここで読書の習慣をつけてみませんか。



若桐会と標準岸和田校の推薦作品

●小学生対象

※高学年対象の作品は中学生にも推薦します。

作品の多くは全集に収められています。対象年齢の参考にしてください。

低学年 高学年

- こぶとり(木下順二) ●殿さまのちやわん(小川未明) ●赤いろうそくと人魚(小川未明) ●月夜とめがね(小川未明) ●眠い町(小川未明)
- ごんぎつね(新美南吉) ●うた時計(新美南吉) ●おじいさんのランプ(新美南吉) ●注文の多い料理店(宮沢賢治) ●セロ弾きゴーシュ(宮沢賢治) ●銀河鉄道の夜(宮沢賢治) ●なめとこ山の熊(宮沢賢治)
- よだかの星(宮沢賢治) ●柿の木のある家(壺井栄) ●あしたの風(壺井栄) ●夏みかん(壺井栄) ●おおかみタブウ(奈街三郎) ●古屋の森(坪田譲治) ●トロッコ(芥川龍之介) ●片耳の大鹿(椋鳩十) ●生きている森(富山和子) ●並木の道・石の道(富山和子) ●あばれ川をおさめる(富山和子) ●生きもののしくみ(中村桂子) ●宇宙の模型飛行機(小松左京) ●杜子春(芥川龍之介) ●蜘蛛の糸(芥川龍之介) ●白(芥川龍之介) ●しろばんば(井上靖) ●路傍の石(山本有三) ●清兵衛と瓢箪(志賀直哉) ●兎の眼(灰谷健次郎) ●山椒太夫(森鷗外) ●山の力(国木田独歩) ●ふるさとの門(酒井朝彦) ●働く人の着物(柳田国男) ●鼻(芥川龍之介) ●一房の葡萄(有島武郎) ●武蔵野(国木田独歩) ●野菊の墓(伊藤左千夫) ●小僧の神様(志賀直哉) ●夜明け前(島崎藤村) ●蓑虫と蜘蛛(寺田寅彦) ●伊豆の踊子(川端康成) ●バッタと鈴虫(川端康成) ●高瀬舟(森鷗外) ●幼年時代(室生犀星)

※低学年は4年生まで、高学年は5年～6年生をさします。

上記のほかにも定番の夏目漱石や新しい作家の優れた作品もありますが今回は私の「偏見」で選ばせていただきました。また、同じ作家でも作品により対象年齢が異なるため、おおざっぱですが高学年、低学年で分けました。読書に慣れていない場合高学年でも低学年対象の作品を薦めます。低学年とは違った角度で読み取ることも感性を養ううえで大切です。

(標準関西岸和田校・教室長)



標準関西
若桐会

小学受験から大学受験
岸和田校